

(19) 附属中学校

ア 設置の趣旨（目的）及び組織

i) 設置の趣旨（目的）

- a 義務教育の学校として、教育基本法等の教育関係法規に基づき、生徒の心身の発達に応じた中等普通教育を行う。
- b 上越教育大学学生の教育実習（参観・参加・実習）の場として学生の指導に当たる。
- c 大学と一体となり、教育理論及び実践に関する研究を行う。さらに、中学校独自の立場から研究と実践を行い、地域の教育現場に寄与できる資料を提供する。

ii) 組織

校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭 13 人、養護教諭、講師 8 人

イ 運営・活動の状況

i) 自己調整、創造性、人間性に着目した教育研究の状況

研究主題「創造性に着目した各教科の単元開発」

創造性に着目し、各教科で単元を通して育みたい創造性を具体的に設定し、効果的に育めるような手立てを講じた。練り上げてきた取組について、令和 6 年 10 月 18 日に開催した教育研究協議会での公開授業等を通して発信した。

a 研究委員会と研究会議の実施

4 人の研究委員を中心に研究を推進した。研究内容を毎週月曜日に研究委員会で検討し、それを毎週木曜日の全教員出席の研究会議で提案し、決定するとともに共通理解を図った。

b 大学教員からの指導の場の設定

大学教員からの指導の機会を設定し、本学教員に指導を仰いでいる。特に教育研究協議会に向けて、具体的に指導を受ける場を設定している。令和 6 年度は、4 月、10 月、2 月に全体での打合会を行い、他にも教科ごとに随時指導を受けるようにした。

c 研究協力体制の整備

各教科の指導者として本学教員及び教育事務所指導主事等から、中間検討会、教育研究協議会、年次研究のまとめに関して指導を受けている。また、公立学校の教員から協力者として、研究の推進や教育研究協議会の運営で協力を受けている。

ii) ICT 先進校として

- a 平成 28 年から、ICT 環境（BYAD による一人 1 台のタブレット端末、校内を網羅した無線 LAN、全教室に大型モニター など）を活用している。生徒は ICT 機器を利活用し、主体的、共創的な学びを展開している。このような取組が認められ、国立大学附属学校として初の Apple Distinguished School（2019-2022）に認定された。その後、2022 年から 2025 にかけて継続認定されている。

- b 県内外から 5 件の学校視察を受け入れた。

ウ 優れた点及び今後の検討課題等

i) 教育研究における優れた点及び課題

生徒が各教科で具体化された創造性を発揮しながら学びを進めることができるよう、様々な手立てを工夫して授業を展開した。具体的には、体験的な活動、協働的な学びの場、新たな視点の提示、

難易度の高い課題などを単元に応じて位置付けたり、設定したりした。今後は、これまでの研究における成果から見えてきた「本物との対話」という手立てに着目しながら授業を構成することにより、生活や社会に生きる力を育む単元の試案を示していく。

ii) ICT活用における優れた点及び課題

生徒が iPad を文房具の一つとして主体的に活用する姿が見られている。今後も ICT 先進校として、教育活動における事例を全国に発信していく。NEXT GIGA を契機に BYAD でなくなることを踏まえ、スムーズな移行が行えるよう準備を進めていく。

iii) 危機管理体制における優れた点及び課題

緊急時の学校の対応は、保護者メールと安否・被害状況確認フォーム、災害伝言ダイヤルという三つの手段で、緊急時・災害時の対応をしている。また、緊急時に交通機関が運行されなくなった場合に、生徒を確実に保護者へ引き渡す方法を導入している。

一方、附属中学校への緊急時の避難経路及び進入経路の確保の面で、北側の道路は非常に狭く、南側は市の公園管理道路であり緊急時と学年規模以上の行事以外では通行できない状況にある。特に、降雪時の避難経路及び緊急車両進入経路の確保について危惧している。

iv) 大学との連携における優れた点及び課題

大学の各研究室及び学校教員養成・研究高度化センターと附属中学校との間で、大学の教員養成・教員研修と附属中学校の教育実践研究の双方にメリットのある連携が図られている。具体的には、大学教員の要請による共同研究、授業公開、大学院生の研究授業等受入れ、学部生や院生の卒論・修論に関わるアンケート調査等への協力である。また、附属中学校教員が大学授業を一部受け持つ等の協力を行っている。附属中学校教員が中心となって活動している地元研究サークルの指導者として、大学教員からも積極的に定例会等に参加してもらっている。

v) 生徒募集に関する学校説明会の実施等による定員充足に向けた取組の視点から

平成 30 年度入学生から、小学校の 1 学級定員に合わせて募集定員を 105 人として募集活動を行っている。

今年度は、児童、保護者を対象とした学校説明会の実施、SNS を活用した学校の取組の紹介、上越地区小学校への学校訪問の機会を増やす等、本校の魅力の積極的な発信に努めた。その結果、143 人（内、公立小学校 76 人）の出願があり、合格者は 108 人（内、公立小学校 41 人）であった。なお、合格者のうち 1 人は入学を辞退している。

児童数減少がますます進む中、更に魅力あふれる学校づくりに努めるとともに、その良さを伝える PR 活動を一層の強化していく。